

シーメンス幹部呼出装置

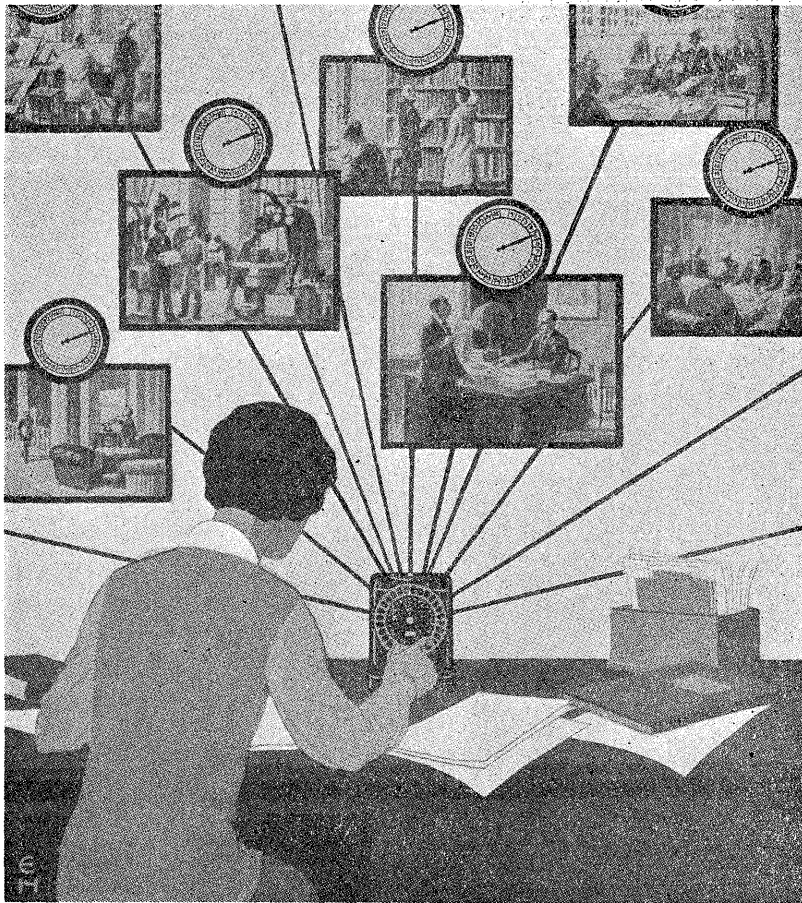
迅速を尊ぶ所には

倉庫、工場、銀行、病院等では、支配人初め幹部が其の席に見えない時、何うしても至急呼出さねばならぬことが屢々起るものです。例へば速決を要する日常事務で些の猶豫も許されない場合とか、外線から電話が架つて來た場合、又特に緊急の商談を持込まれた場合とかが、よくあるものです。巨額の商取引、重要財産の保全、大なる損害の豫防、特に病院では人命の安危が擔當者を探し當てることの早いか遅いかに依つて決することが度々ある。給仕が一室一室探して廻つても、電話を室毎に架けて見ても、時間のかゝること夥しく、或は行違ひになつたり、或は話中であつたり、結局無法になることも少なくない。

幹部呼出装置は

其故、職業柄幹部の速決を要する所、支配人の裁可を要する事務が常に多い所等、至急呼出を要する所には

必要缺くべからざるものであります



(第一圖) 各室一齊に指針が動き出しました

本装置の使用法

幹部呼出装置の使用法は極めて簡単です。

本装置は下記の四つの部分から成立つてゐる。

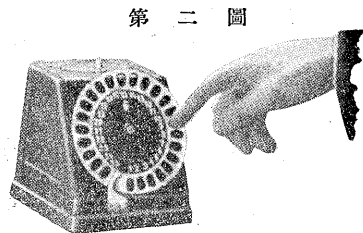
- 呼出器一個
- 中継機一個
- 接 続 線
- 各室に取付けた表示器

呼出器は、電話交換室、支配人室、又は受付等に設置する。

假に A 氏（番號を 8 とす）を呼出すとすると、自動電話と同様に呼出器のダイヤルの 8 の處へ指を入れて「指止」まで廻す（第二圖）（豫め各人別に一々所定番號を定めて置く）。忽ち各室に備付けられた表示器の指針は動き出して 8 の所まで來てピタリと停る。と一齊に警鈴が鳴出す。各室の幹部は何れも一樣に表示器を一瞥すると、指された番號は 8。A 氏は早速氣付いて近くの電話を執り何の用事かを確める事になる。

本装置の構造

本装置の構造は最も新式の考案に依るもので、大體に於てシーメンス自動電話に似てゐる。呼出器（第二圖）にはダイヤルがあつて、25 の目盛を有し、25 迄の番號を表はす様になつてゐる。只一度廻すだけで、この内のどの番號でも呼出し得る様になつてゐる。呼達ひを防ぐ爲に呼出器の近くの壁に表示器を一つ備付けて置くことと便利で



第 二 圖

呼 出 器

表示器 は電氣時計そつくりです（第三圖參照）。大きく鮮明な金屬製ダイヤルの上には 1 から 25 までの目盛があつて（12 人呼出用には 1 から 12 までの目盛）25 人迄呼出し得る様になつて居り、警鈴は其の中に入つてゐる。

中継機 は黒漆塗の函に設置され、セレクター、繼電器、フューズ等が狭い函の中に手際良く收められてゐる。

本器の特色： 本器の特色は、極めて速かに用を達し得る點にある。自動電話同様、呼出す爲には只ダイヤルを廻せば足り、ダイヤルを廻し、指針が呼出されてゐる人の番號を指して彼に通ずる迄僅か數秒間で済む。警鈴は六秒毎に鳴續けて、呼出された人が電話交換室に問合はせる迄は、何時迄も鳴續ける。交換室で中継器の押ボタンを元に戻せば表示器の指針は零に戻り、警鈴も亦鳴止む様になつてゐる。

本器利用の範圍

本器利用の範圍は極めて廣い。

呼出器 として使用される外、**時刻報知器**及び**非常警報**として利用し得る。

時刻報知器：表示器を電氣時計の親時計又は子時計の信號装置に連結し、一定時間を隔て、鳴る様にして置くと、其の時間が廻つて来る毎に、3 秒から 30 秒間適宜に警鈴を鳴らす。工場、事務所等で利用されることが多い。

非常警報：本器に僅かの器具を取ける時は非常の事故又は危険の突發した場合の非常警報器として利用される。ボタン一つ押せば、各所の表示器は一齊に鳴出して一秒置きに鳴續く。

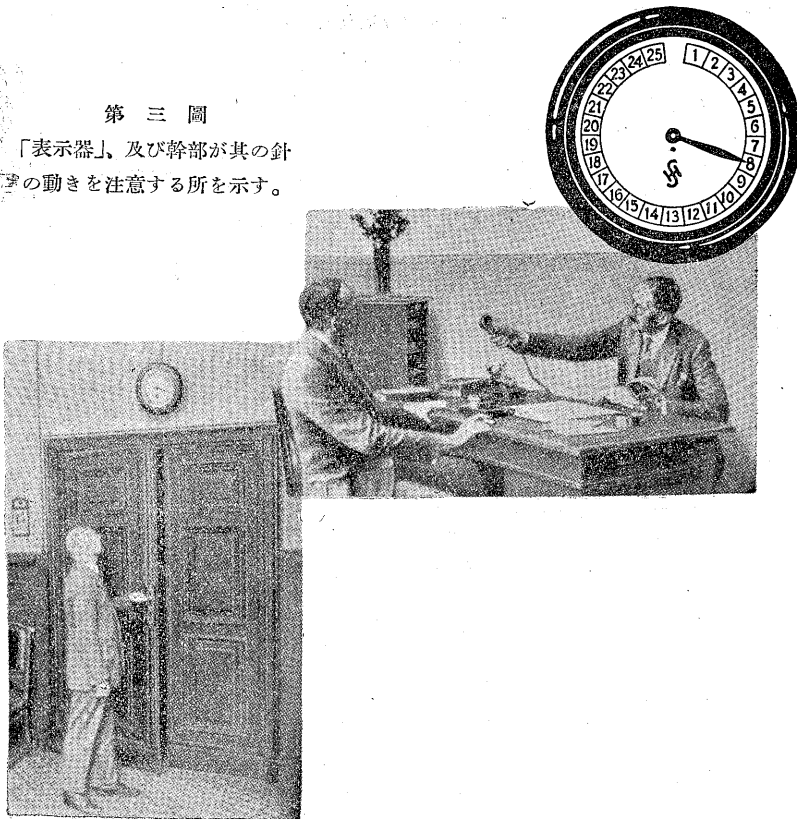
斯くて本装置は、**幹部呼出**、**時刻報知**、**非常警報**の三種の異つた目的に利用し得ることになる。

警鈴を止めるには 幹部呼出、非常警報の場合には、只ボタン一つ押せば宜しい。時刻報知の場合には、一度鳴つたら、其次には豫め時計に調節して置いた一定の時間が来る迄は決して鳴出さないから、警鈴を止める必要は起らない。

此等三種の場合の警鈴は其の鳴り方が各々異つてゐるから、混同される虞は決して無い。

第 三 圖

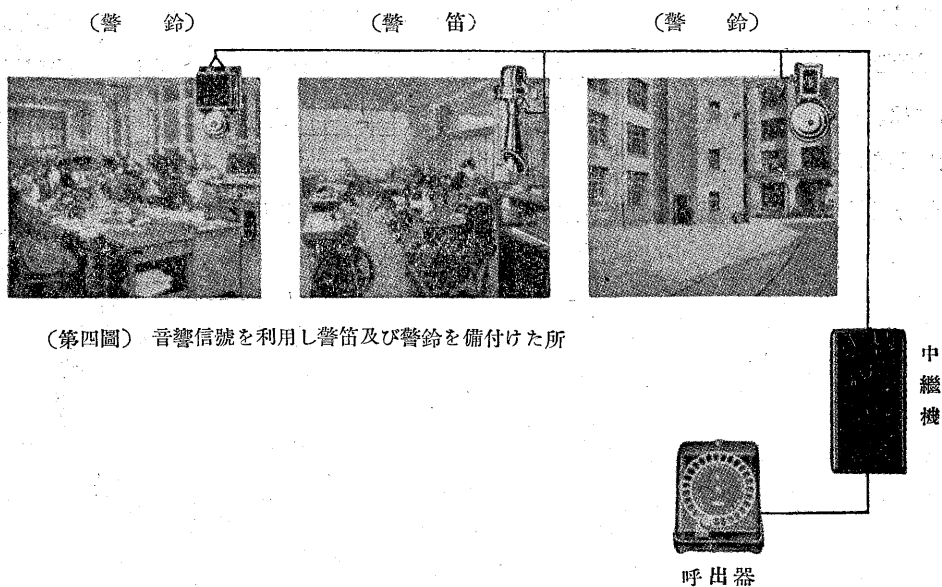
「表示器」、及び幹部が其の針の動きを注意する所を示す。



音響信號法

表示器を見るのに都合の悪い所には、音響信號法をお勧めします。是れも、指針表示器の場合と大體同じ方式に依るものであつて、指針表示器の代りに、警笛又は警鈴を備へ、モールス信號に準じて豫め各人の信號を決めて置き、専ら音響の種類に依つて呼出を行はしめる様にする。但しこの装置では 12 種のモールス信號を最大限度とする。

50人、75人、又は 100 人の幹部呼出装置 としては、既に述べた指針表示器を選ぶを便とす。此の大装置では、何れの表示器にも色の異つたランプを各三個宛備へて、100 迄の番號の呼出に便する。中繼機は大きいものを必要とするが、呼出器は一個で充分である。(小谷)





＊本誌に記載されている会社名および製品名は，それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。